

第24回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成24年2月

応募者名：兵庫県 中播磨県民局

事業の名称：JR山陽本線等姫路駅付近

連続立体交差事業

実施都市名：兵庫県

事業目的

兵庫県播磨地域の中心都市である姫路市は、東西にJR山陽本線、北に播但線、北西に姫新線、南西に飾磨港線（昭和61年廃止）が平面で通っており、さらに駅付近に広大な車両基地や貨物基地が立地していた。そのため、都心部は鉄道施設によって分断され、駅の南北で土地利用に格差が生じていたことや、南北に横断する道路が十分でないことから特定路線に交通が集中し交通渋滞が慢性化するなど、都市機能に大きな障害を及ぼしていた。これらの弊害を抜本的に解消し、地域の道路ネットワークを全面的に改善強化するとともに、市街地の一体化による魅力的なまちづくりを促進することを事業の目的としている。

事業概要

事業名称：JR山陽本線等姫路駅付近連続立体交差事業

事業箇所：姫路市市之郷～姫路市岡田

除却踏切数：7箇所

立体交差する都市計画道路：9路線

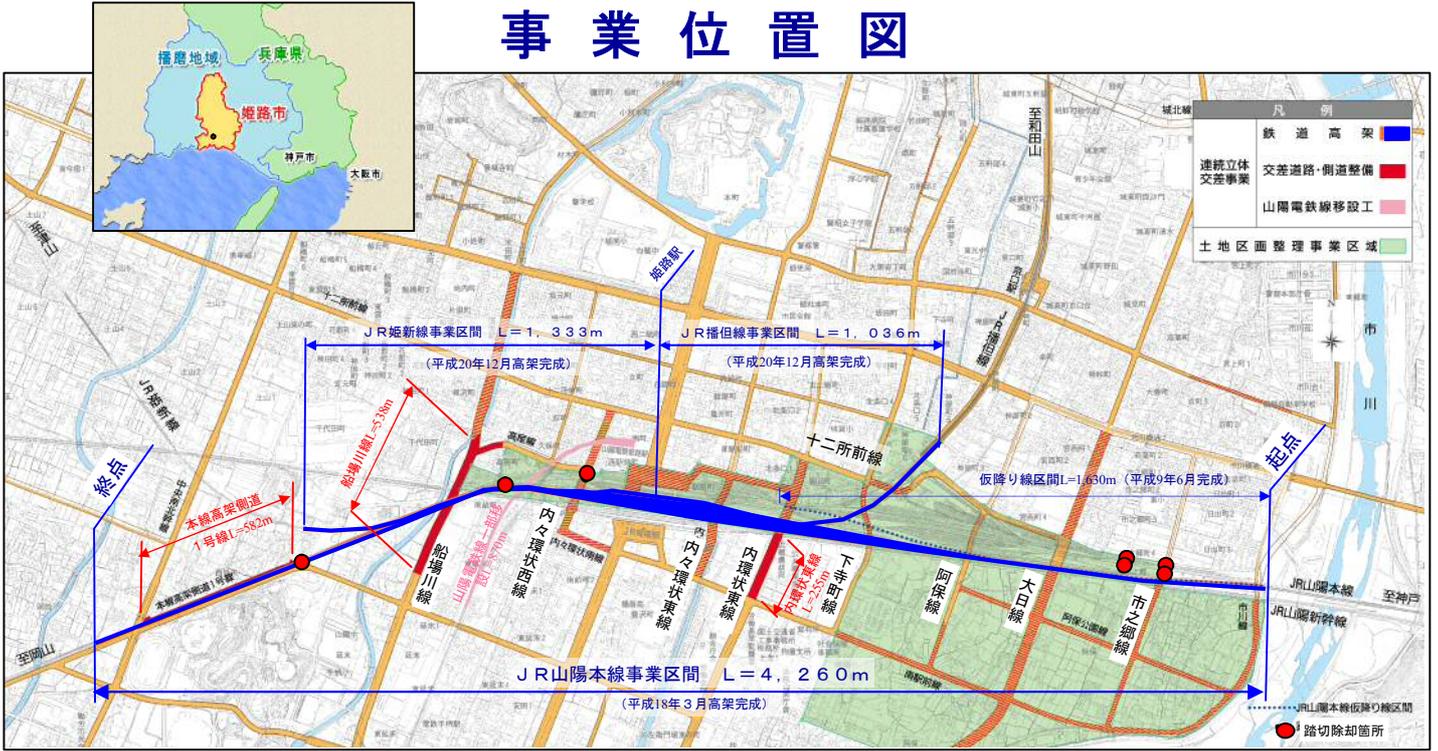
事業延長：約6.6km 事業費：約632億円

事業実施期間：昭和63年度～平成22年度

本事業は、JR山陽本線約4.3km、播但線約1.0km及び姫新線約1.3kmの鉄道を高架化し、交差である船場川線、内環状東線などの整備を行ったものである。

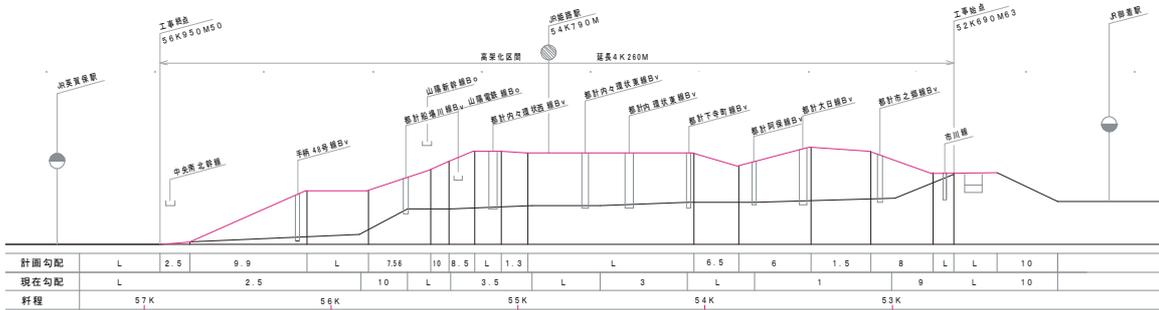
また、連立事業とあわせて姫路駅周辺土地区画整理事業等を実施し良好な市街地を形成することにより、事業効果を相乗的に高めることとしている。

事業位置図

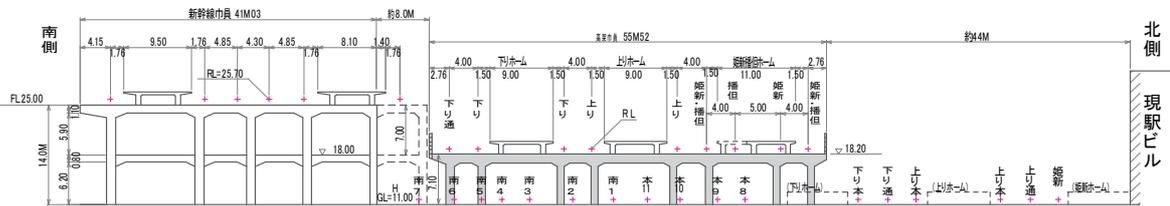


全体図(平面図・側面図・横断面図)

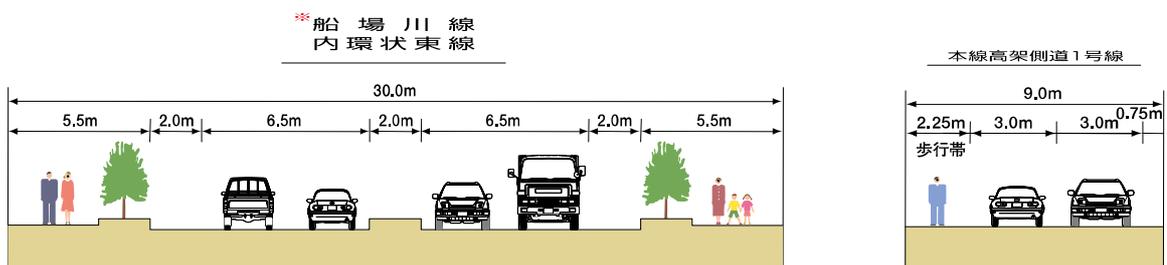
線路縦断略図 (JR山陽本線)



駅部断面図



交差道路断面図



※船場川線は一部幅員構成が異なる

JR山陽本線等姫路駅付近連続立体交差事業の整備効果アピール資料

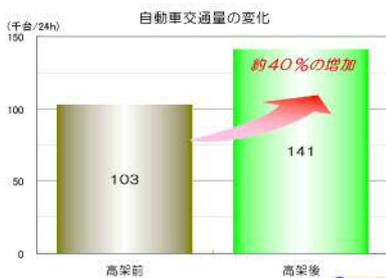
○事業概要

事業名: JR山陽本線等姫路駅付近
連続立体交差事業
事業箇所: 姫路市市之郷～姫路市岡田
踏切除却数: 7箇所
立体交差する都市計画道路: 9路線
事業延長: 約6.6km
総事業費: 約632億円
事業期間: 昭和63年度～平成22年度

○交通量調査結果

供用前 実測 昭和60年7月
供用後 実測 平成23年3月
・交通量の推移
姫路駅周辺の山陽本線等横断交通量
103,000台/日→141,000千台/日
(船場川線)
24,852台/日→32,186台/日

① 南北道路交通の円滑化



関連する街路整備が進められている中、現時点においても、自動車交通量が約4割増加

② 交通結節点機能の向上



整備後 (関連事業にて整備中)

◆新たな姫路駅 (中央コンコース)



◆高架下利用 (姫路観光案内所)



④ 南北土地利用の促進



◆姫路駅周辺地区総合整備事業 (キャストィ21)



③ 都市の活性化

◆整備状況



○整備効果

① 南北道路交通の円滑化

・姫路駅周辺の南北を結ぶ都市計画道路が、4本・10車線から10本・28車線へと増加する。また、合計7箇所の踏切が無くなり踏切事故や、踏切遮断による交通渋滞が解消する。

② 交通結節点機能の向上

・JR姫路駅が高架化により南へ移動することにより、駅北広場が約2.5倍の面積に広がり、バス・タクシーの乗り降りがスムーズになるとともに、新しく交流空間も整備される。

③ 都市の活性化

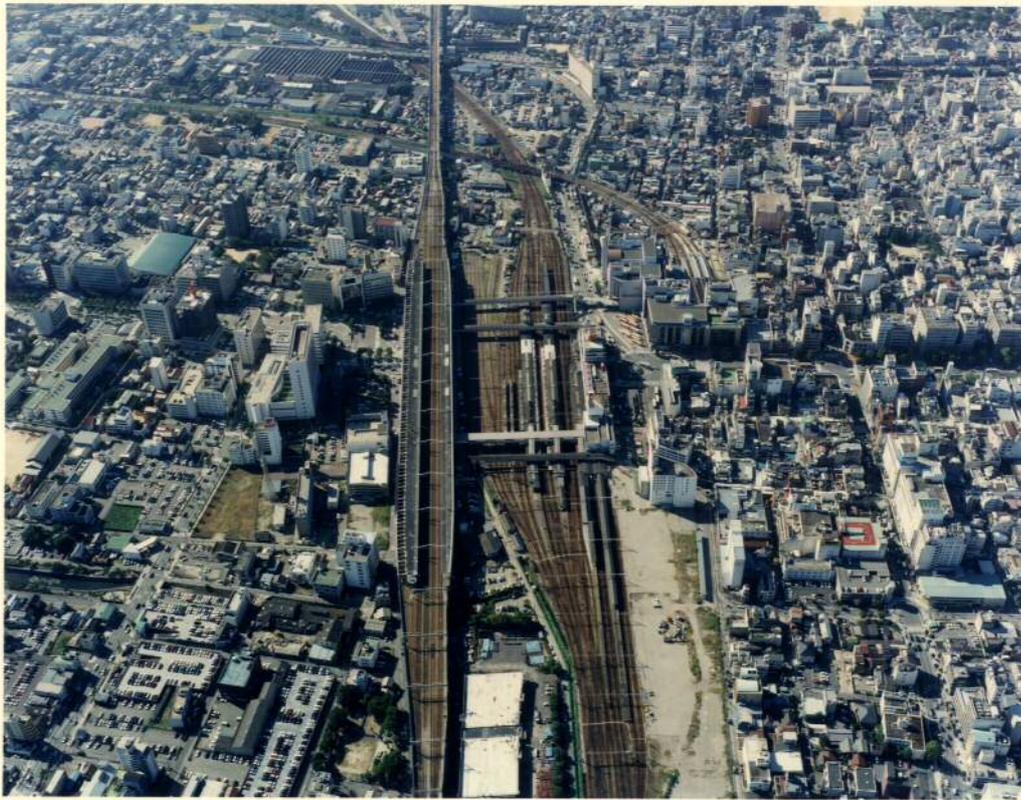
・都心部にあった鉄道の貨物基地・車輛基地を移転し、約26ヘクタールの広大な土地が新たに活用される。

④ 南北土地利用の促進

・姫路駅周辺では、南北を平面でむすぶ道路や通路ができ、往き来がしやすく、利便性が向上する。
・鉄道で分断されていた土地が、連続した都市空間として利用可能になる。

事業前写真

平成9年10月撮影



平成元年3月撮影



車両基地・貨物基地



(都)内々環状西線 (落窪寺踏切)



(都)船場川線 (大將軍橋)



(都)内環状東線 (朝日橋)

事業後写真

平成22年11月撮影



平成22年11月撮影

平成24年1月撮影



車両・貨物基地跡



(都)内々環状西線

平成24年1月撮影

平成24年1月撮影



(都)船場川線 (大將軍橋跡)



(都)内環状東線 (朝日橋跡)